

■五ヶ瀬町立上組小学校

開催日：令和6年6月26日（水）10時45分～11時30分

受講者：3～6年生 7名

講師：大館 真晴 氏

・応募のきっかけ

⇒五ヶ瀬町桑野内地区では神楽が継承されており、児童の中にも神楽を待っている子もいる。今回の講座を通してなぜ神楽を舞うのかということを理解してほしいと思い、応募した。



「高千穂の夜神楽に登場する神々、神話について」をテーマに実施された今回の講座。五ヶ瀬町の神楽は高千穂系の夜神楽です。古戸野神楽の「花沖江」という演目は、水神を祀る演目であり、水神は火事を防いでくれるといわれています。

また、神楽の天蓋（雲）の内側には水を司る龍の絵が描かれており、稲作が上手くいくようにとの思いが込められているとのこと。



五ヶ瀬の農業は世界農業遺産にも認定されており、自慢できるもの。山腹用水路が張り巡らされていますが、これは人力で皆が力を合わせて作ったものであり、水（稲作）に対する強い思いが込められています。

五ヶ瀬の神楽、稲作の特色を支えるものは人々の結束力であり、神楽も農業も豊かな実りへの思いという共通点があります。

・生徒の感想

⇒・話を聞く前は、神楽について考えていませんでした。しかし、話を聞いて、神楽は大事ということが分かりました。

・神楽には稲作や水神などの意味があるんだと思いました。次、神楽をする時は、大館先生の言ったことを思い出して舞いたいと思います。